

令和8年播き（令和9年産）ニシノカオリ採種ほ栽培暦

JA伊勢

伊勢志摩地域農業改良普及センター

時期	作業項目	作業内容
10月	土づくり	排水性の良好なほ場を選定し、土づくりとpH6.0～6.5になるよう酸度矯正する
		堆肥：1～2t/10a（完熟したもの、前作・地力を勘案して施用する）
		苦土石灰：100kg/10a（pH5.0を下回る場合は、200kg/10a施用）
		※ 原則、水稻作あとのほ場を選定すること
		※ 周辺ほ場に他品種が栽培されていないことを確認すること
	排水対策	周囲及び中央に排水溝の設置（深さ20～40cm、間隔5～10m）し、
		必ず排水溝へつなげる（栽培期間中のメンテナンスも忘れず行う）
		※ 周囲排水溝は早い時期に設置してほ場状態を整える
11月上旬	耕起・施肥・播種	元肥 窒素成分で5kg/10a（倒伏に留意して施肥量は調整すること）
		例）グリーン化成（14-14-14）35kg/10a
		※ 元肥一発肥料を使う場合は、全窒素14kg/10aを目安に施用する
		種子消毒 ベンレートTコートを乾燥重量の0.5%粉衣
		※ 種子1kgに対して5g使用
		播種 種子量8kg/10aで条間30cmの条播き
		※ 作土が細くなり過ぎないように注意！（苗立ち不良を起こす）
		※ 播種始めにホッパー等に前年種子が残っていないか確認！
		※ 種子投入時には袋の記載品種を必ず確認！
	雑草防除	播種後～発芽前に全面土壌散布
		例）ムギレンジャー乳剤 薬量300～600ml/10a
12月	踏圧①	3葉期から節間伸長開始の間に15～20日間隔で2～3回実施する
1月	踏圧②	3葉期から節間伸長開始の間に15～20日間隔で2～3回実施する
1月下旬	追肥① （分げつ肥）	穂数確保のために窒素成分で3～4kg/10a施用する（やや早めの追肥）
		例）グリーン化成（14-14-14）20～30kg/10a
	雑草防除 （取りこぼし対策）	広葉雑草の発生が多い場合は除草剤を散布する。
		草種によって農薬を選定し、農薬ラベルの記載内容を守って散布すること
		例）カラスノエンドウ：アクチノール乳剤 薬量100～200ml/10a 穂ばらみ期まで
		例）ヤエムグラ：エコパートフロアブル 薬量50～100ml/10a 収穫45日前まで
		例）広葉雑草（タデ）：バサグラン液剤 薬量100～200ml/10a 収穫45日前まで
		例）土壌処理（1年生雑草）：ゴーゴーサン乳剤 薬量300～500ml/10a 収穫60日前まで
2月	踏圧③	3葉期から節間伸長開始の間に15～20日間隔で2～3回実施する
2月下旬	追肥② （穂肥）	幼穂形成始期に窒素成分で3～4kg/10a施用する
		例）グリーン化成（14-14-14）20～30kg/10a
4月中旬	圃場審査	生産者・普及センター・JAでほ場審査を実施する
	雑草除去	審査結果を参考に、雑草の抜き取りを実施する
	病害虫防除	赤カビ防除は必須、散布適期は1回目開花盛期（出穂後7～10日）、2回目は1回目から7～10日後
		1回目 例）ミラピスフロアブル 薬量50～150L/10a（1500～2000倍） 25L/10a（250～500倍）
		2回目 例）トップジンM水和剤 薬量60～150L/10a（1000～1500倍） 25L/10a（250倍）
		曇天や降雨が続く場合は追加防除を実施する
5月中下旬	圃場審査	生産者・普及センター・JAでほ場審査を実施する
	抜き穂・雑草除去	審査結果を参考に、抜き穂・雑草の抜き取りを実施する
6月上旬	収穫	穀粒水分25%以下になってから実施
		※ 収穫開始前に機械を分解清掃を実施！
		※ 審査結果によって除外となったほ場・箇所を確認してから作業にはいる！
		※ 穂発芽抵抗性が十分でないので刈り遅れに注意する！